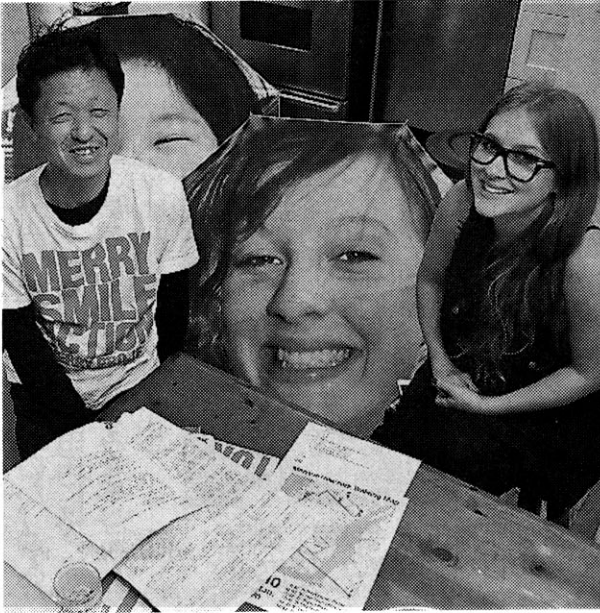




2011年(平成23年)  
9月11日  
日曜日



エリザベス・ウッドさん(右)は、9年前に水谷孝次さん(左)に撮ってもらった笑顔をはり付けた傘を前にはにかんだ「ニューヨーク、田中写す

## 笑顔再び

もう一度、彼女の笑顔を見たい――。世界各地の被災地で笑顔を撮り続けている東京のアートディレクター水谷孝次さん(60)が今月、同時多発テロの1年後に知り合ったエリザベス・ウッドさん(28)とニューヨークで再会した。10年前の9月11日。ウッドさんは、進学のため中西部からニューヨークに来てまだ1週間だった。寮は航空機が突っ込んだ世界貿易センタービルの近く。ビルの崩壊を目撃し、がれきの灰をかぶった。

またテロが起きるのでは。体調を崩し、ふさがちな日々が続いた。帰郷も考えていた1年後の9月11日。大学

## 東京の男性、米女性とNYで再会

の近くで「あなたの笑顔を撮りたい」と水谷さんに声をかけられた。

「あれで前向きな気持ちを取り戻した」。ハリケーンで水没したニューヨークの学校で、復興途上の子どもたちのドキュメンタリーを撮った。

3月11日、福島原発事故を知った。高校時代、茨城県東海村にホームステイしていた時に臨界事故に遭遇し、ひどいものではなかった。

そんな中での再会に「テロから10年でどうつな気分になるかと思っていたけど、コウジの笑顔が見られてよかった」。水谷さんは「テロから立ち直ろうとしているニューヨークの人たちも、東北の子どもたちに思いをはせてほしい」と話した。

(「ニューヨーク」田中光)